

中央地区協議体「たが和っか」は、中央地域包括支援センターの職員が生活支援コーディネーターとして町内会長、民生委員、市民活動サポートセンター、シルバー人材センター、介護施設関係、地域住民、多賀城市社会福祉協議会など様々な方々と一緒になり、地域づくりに取り組んでいます。住み慣れた地域で、ずっと暮らしていくためには「つ・な・が・り」がとても大切という考えのもと、**居場所と防災**の2つのテーマで活動しています。



合同避難訓練

6月28日に複数の保育所合同での避難訓練があり、八幡地区にある『鈴の花保育園』『コアラ保育園』『八幡保育所』の3つの保育所が参加しました。

それぞれの保育所から末の松山へ避難し、その後八幡公民館に移動しました。八幡地区の町内会や事業所、福祉施設、市内の郵便局長なども協力しました。たが和っかのメンバーも参加し、『鈴の花保育園』と『コアラ保育園』から出発しました。



保育園を出発



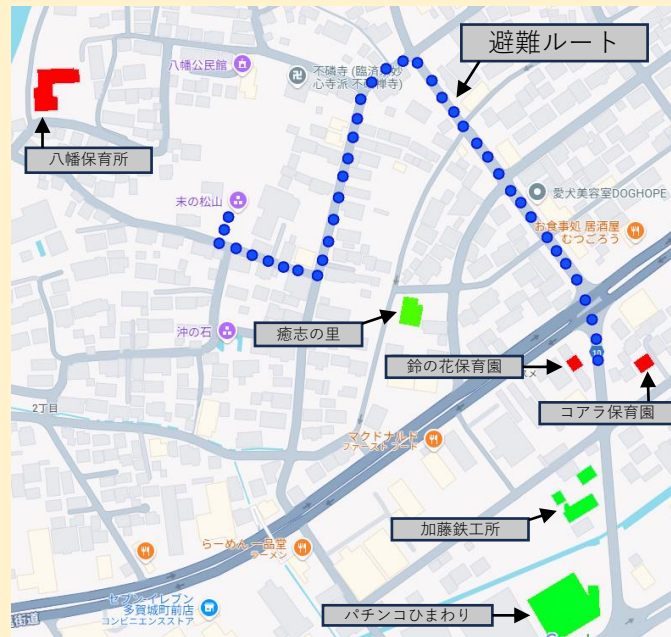
末の松山に避難



国道45号線を横断



八幡公民館へ移動



今回の合同避難訓練を通じての気づきや変化について、鈴の花保育園の三島園長、癒志の里の鈴木管理者、加藤鉄工所の加藤社長の3名にそれぞれインタビューしてきたので、ご紹介します。

鈴の花保育園



Q1：保育所合同避難訓練に参加した感想をお聞かせください。

（三島園長）東日本大震災を経験している職員が少ないので、職員それぞれの災害に対する危機意識が高まりました。近所にはあるものの交流の無かった『コアラ保育園』ともお散歩のときなど気軽に挨拶できる関係になれたのが良かったです。

Q2：保育所合同避難訓練で気になったことや課題などをお聞かせください。

（三島園長）避難先について改めて考えさせられました。現在は『癒志の里』を避難場所として設定していますが、災害時に国道45号線を渡って避難するのは難しいと思いました。垂直避難が良いですが、園の建物には避難スロープがないため避難所に設定できず、かと言って訓練に参加していた『パチンコひまわり』に逃げるにしても海の方に逃げるのは怖い気持ちもあります。

Q3：保育所合同避難訓練に参加し、地域とのつながりの大切さや意識は変わりましたか？

（三島園長）とても変わりました。災害時に職員だけで子どもたちを守ることは大変で、地域の方々に助けを求めたらとても心強いです。実際の災害時は地域の方々も自分たちのことで精一杯で、助けをもらうのは難しいと思いますが、気にかけてもらえるかどうかというのは大きな違いだと思います。そのため、普段のつながりが大切だと感じました。

癒志の里



Q1：保育所合同避難訓練に参加した感想をお聞かせください。

（鈴木管理者）防災に対する意識が変わりました。ここに何があるのか、この駐車場なら避難が出来そうとか、ブロック塀から離れることなど、これまでただ歩いていた道の見方が変わりました。震災当時の大変さや困りごとがたくさんあったこと、その教訓から女性用の簡易トイレが装備されたことも知りました。

Q2：保育所合同避難訓練で気になったことや課題などをお聞かせください。

（鈴木管理者）一緒に参加した住民から「八幡下二は多賀城小学校に通学しているから避難所も多賀城小学校にして欲しいが、八幡地区は八幡小学校が避難所に指定されていて、実態に合っていないで困っている」との話聞き、その通りだと思いました。これまで『コアラ保育園』の避難場所は『癒志の里』になっていましたが、訓練後に避難場所を『パチンコひまわり』に変更するとのお話がありました。今回の訓練の結果、災害時に国道45号線を横断しての避難は難しいと考えたようです。

Q3：保育所合同避難訓練に参加し、地域とのつながりの大切さや意識は変わりましたか？

（鈴木管理者）今回の訓練をきっかけに、『パチンコひまわり』から「有事の際に食料や水など足りないものがあつたら教えてください。」と協力の申し出を頂き、とても心強くありがたく思いました。このような新しいつながりが出来て良かったです。

施設の利用者も訓練に参加して「大人の自分がこの子たちを守るんだ。」と張り切っていました。

訓練前の事前の打合せでは、地域の状況や人をたくさん知ることが出来ましたし、色々な意見を交換できたことも良かったです。

『癒志の里』は八幡沖地区にあるので、八幡沖のお祭りやイベントに利用者と一緒に参加しています。一時避難場所（津波避難ビル）にも指定されており、今年の市防災訓練では地域の親子と小中学校の先生など約30名を受け入れました。これからも地域との交流は大事にしていきたいです。

加藤鉄工所



Q1：保育所合同避難訓練に参加した感想をお聞かせください。

（加藤社長）合同避難訓練に参加して、地域の一員として園児の避難誘導などに協力できて良かったです。これまで近所という事でお互いの会社があることは知っていたけれど、特にお付き合いの無かった事業所と、訓練を通じて顔を合わせることが出来たことは収穫でした。

Q2：保育所合同避難訓練で気になったことや課題などをお聞かせください。

（加藤社長）災害が発生した場合は、信号が停電して車が渋滞することが考えられます。実際に東日本大震災がそうでした。そんな中、子どもたちを連れて国道45号線を横断するのは危険を伴い、困難だと思います。やはり、近くの高くて頑丈な建物へ垂直避難するのが現実的だと思います。

Q3：保育所合同避難訓練に参加し、地域とのつながりの大切さや意識は変わりましたか？

（加藤社長）周辺の事業所と顔を合わせて一緒に何かするのは、こういった機会が無いと難しいです。そういう意味では、この合同避難訓練は近所の事業所同士が顔を合わせるきっかけとして、とても良かったと思います。もっと多くの周辺事業所（ごんきや、新興タクシーなど）にも参加してもらい、有事の際だけでなく、普段からのつながりが持てれば良いと感じたので、これからも合同避難訓練を継続的にやって欲しいです。

防災チームの感想

3名のインタビューを通して、普段からの顔の見える関係やつながりがとても大切だと感じました。今回の合同避難訓練では事業所や施設が参加したことで、つながりの輪がさらに広がりました。このようなつながりが、市内に広がって欲しいと思います。